

## IV

### 道徳教育研究グループ

#### 「考えたくなる授業のつくり方」

##### <研究員>

吹田第一小学校	教諭	八百 亜希子
吹田南小学校	教諭	森 三智子
岸部第二小学校	教諭	並川 富紀子
江坂大池小学校	教諭	小松 優子
高野台小学校	教諭	中西 亮
南千里中学校	教諭	明原 由美子
豊津中学校	教諭	大森 なぎさ

##### <スーパーバイザー>

大阪教育大学	教授	金光 靖樹
--------	----	-------

## 1. はじめに

『人としてよりよく生きるうえで大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかについて、時には悩み、葛藤しつつ考えを深め、自らの生き方を育んでいくことが求められる。』

(平成27年7月 小学校(中学校)学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 より)

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から「特別の教科 道徳」が全面実施されます。いじめによる自殺事件などを発端に、子ども達のネット依存、自尊感情の低さ、社会参画への意欲の低さなどが浮き彫りになり、「心の教育」の見直しが急務となったためです。

さらに、平成27年8月にとりまとめられた教育課程企画特別部会 論点整理には、下記の通り記されています。

『将来の変化を予測することが困難な時代を前に、子供たちには、現在と未来に向けて、自らの人生をどのように拓いていくことが求められているのか。また、自らの生涯を生き抜く力を培っていくことが問われる中、新しい時代を生きる子供たちに、学校教育は何を準備しなければならないのか。グローバル化や情報化が進展する社会の中では、多様な主体が速いスピードで相互に影響し合い、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝播し、先を見通すことがますます難しくなっている。予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。』

今後、子ども達が将来就くことになる職業の在り方についても、技術革新等の影響により大きく変化すると言われています。例えば、子ども達の65%は将来、今は存在していない職業に就く(キャシー・デビッドソン氏(ニューヨーク市立大学大学院センター教授))との予測や、今後10年~20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い(マイケル・オズボーン氏(オックスフォード大学准教授))などの予測があります。

予測の難しい未来に向かって生きていく子ども達。わたしたちには、道徳科を要とした学校教育活動全体で指導する道徳教育によって、人間としての在り方を自覚し、他者とともによりよく生きていくための道徳性を養う指導を行っていくことが求められています。

## 2. 特別の教科 道徳「道徳科」とは

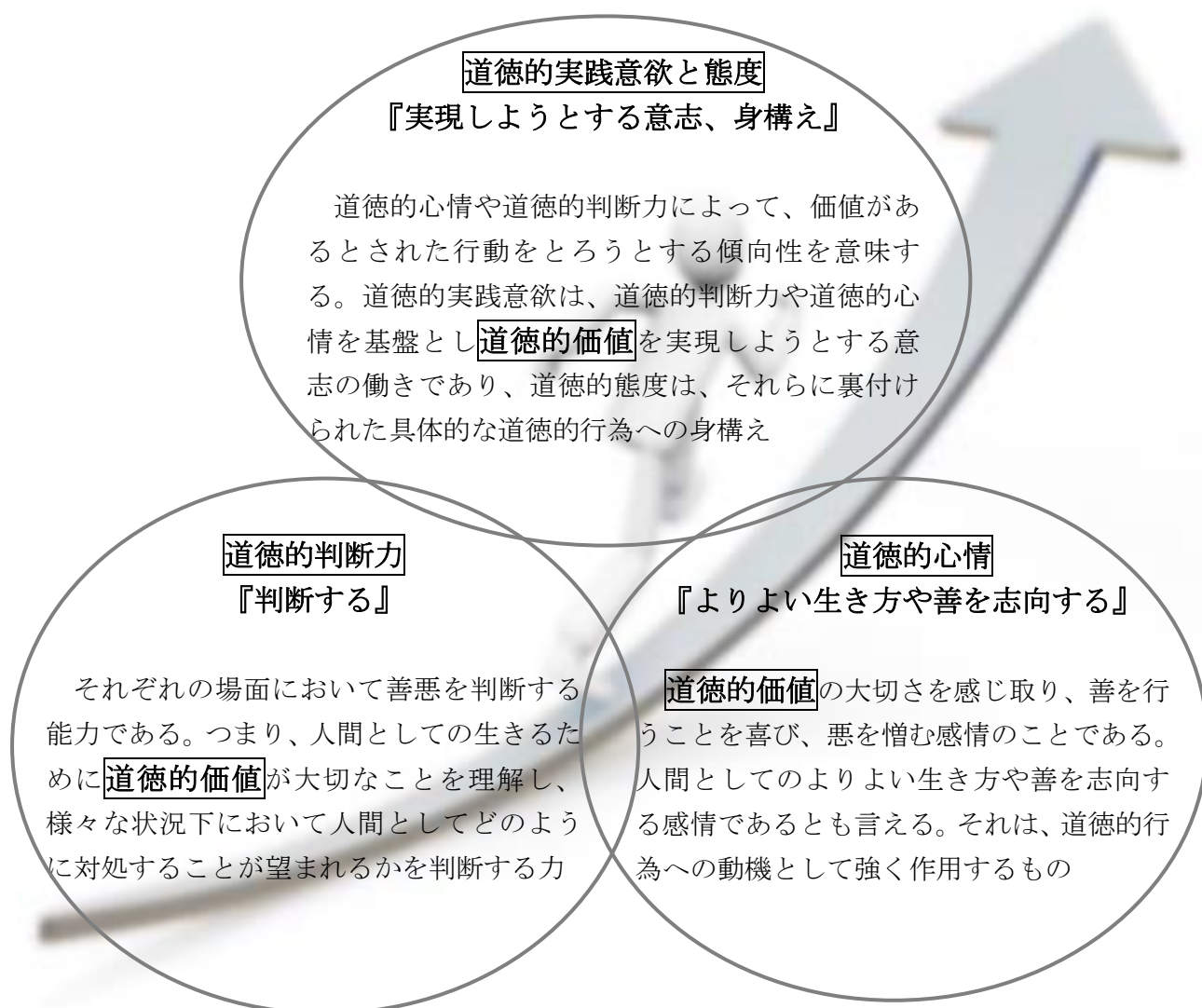
ここで一度、特別の教科 道徳「道徳科」について整理します。

道徳教育は、平成25年12月 「道徳教育の充実に関する懇親会」報告において、自立した一人の人間として人生を他者とともにより良く生きる人格を形成することを目指すものと示されています。学校における道徳教育の要となるのが 特別の教科である道徳「道徳科」です。

では、「道徳科」とは何を目指し、わたしたち教職員は何を求められているのでしょうか。

**道徳科**が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる**道徳性**を養うことです。

**道徳性**とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳性はその諸様相である、**道徳的判断力・道徳的心情・道徳的实践意欲と態度**で構成されます。



## 道徳的価値とは、

よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎（≒人間らしい良さ）。

道徳性を養うには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要（基）となります。

学習指導要領には、4つの視点で分類された道徳的価値を含む内容項目を記しています。これらは、道徳的価値のうち、子ども達の道徳的価値観を形成する上で必要なものを取り上げたものです。

下記の4つの視点は、相互に深い関連を持っています。わたしたちは、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育において、4つの視点に含まれる全ての内容項目について適切に指導し、道徳性を養っていくのです。

A 主として自分自身に関わること	B 主として人との関わりに関すること
C 主として集団や社会との関わりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

## 道徳科においてわたしたちに求められること

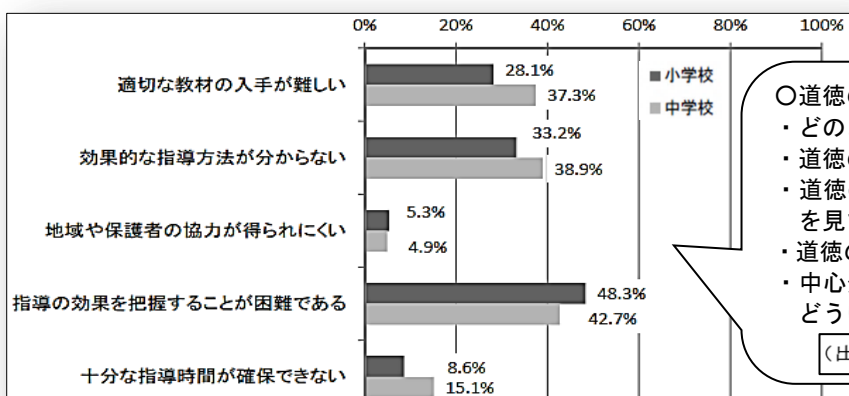
道徳科の指導においては、一人一人が道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫すること。それとともに、子ども達が自らのよさや成長を実感できるように指導方法を工夫すること。

## 3. 研究主題にこめた願い 「考えたくなる授業のつくり方」

次世代を創造することが求められている子ども達には、従来の読み物資料の登場人物の心情理解に終始する授業ではなく、課題発見・解決能力、創造性・感性、思いやり、意欲、多様性を受容する力といった資質や能力が重要です。

道徳の授業をとおして、人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、基盤となる道徳性を育成することが目標となります。

しかし、現在、学校現場で道徳教育が必ずしも十分に行われているとは言えないのが現状です。



### ○道徳の授業をする上での教員の悩み

- ・どのように授業をしたらいいのかわからない。
- ・道徳の授業が国語のようになってしまう。
- ・道徳の授業のやり方がわからず、道徳の教育テレビを見て終わってしまっている。
- ・道徳の授業＝生活指導のようになってしまっている。
- ・中心発問は思いつくが、そこまで持つて行くのに、どういふ発問をすればいいのかわからない。

(出典) 文部科学省「道徳教育実施状況調査」

道徳教育研究グループでは、児童・生徒はもちろん、「道徳の授業って難しいな」、「どうつくればいいんだろう」と悩む先生方にも道徳の授業を楽しんで欲しいと願い、「考えたくなる授業のつくり方」をテーマに研究を進めることにしました。

#### 4. 平成28年度活動経過

月	日	道徳教育研究G活動	内容
6	7	調査研究総会	研究委嘱式
6	7	第1回研究G会議	道徳グループ研究テーマ検討
6	23	第2回研究G会議	活動内容の検討 授業提案チームの編成（A・Bチーム）
7	20	S Vミーティング	第1・2回会議報告 研究方針承諾願い
7	28	第3回研究G会議	道徳に係る実態調査を受け、年間活動内容年間予定の決定
8	24	第4回研究G会議	授業づくりのベース構築について
9	20		Aチーム会議（授業提案に向けた打合せ）
9	27	第5回研究G会議	Aチームによる授業提案及び意見交流
10	14		Aチーム会議（意見交流を受けての授業の練り上げ）
10	28	第6回研究G会議	Aチーム提案研究授業及び意見交流
10	28		Bチーム会議（授業提案に向けた打合せ）
11	9	第7回研究G会議	B授業提案・検討
12	2		Bチーム会議（意見交流を受けての授業の練り上げ）
12	15	第8回研究G会議	Bチーム提案研究授業及び意見交流 S V指導・助言
12	26	第9回研究G会議	教育研究報告会に係る打合せ等
1	6	第10回研究G会議	教育研究報告会に係る打合せ等
1	23	第11回研究G会議	教育研究報告会に係る打合せ等
1	25	教育研究報告会	テーマ「考えたくなる授業のつくり方」
3	3	第12回研究G会議	年間研究活動まとめ（紀要作成に係る意見交流） S V指導・助言（道徳科をとりまく今後の動向等）

## 5. 考えたくなる授業の作り方

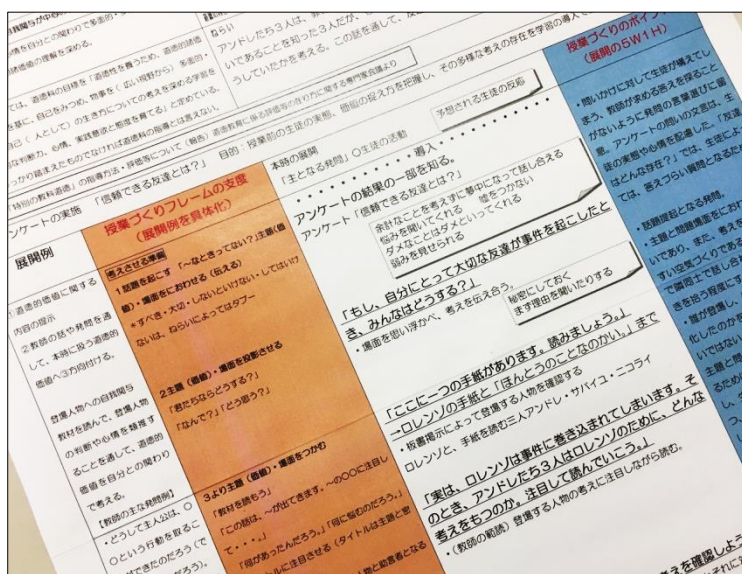
自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省し、多面的・多角的に考え、判断する能力、道徳的心情、道徳的行為を行うための意欲や態度を育てる道徳の時間においては、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させる学習に終始しないように留意しなければなりません。

以上のことを踏まえながら、授業づくりのプランニングと授業展開の留意等の素材を研究、発信し、道徳の授業に苦手意識を抱えている教職員の支援を行うことで本市の道徳の授業のさらなる充実につながると考えました。

そこで、研究の発信を受けた教職員にとって、これならできると思えるものを作り上げることを重視し、読み物教材を中心とした、「考える必要性のある発問」と「道徳的価値に対する理解を深め思考を広げる展開」についてポイントを示した『授業レシピ』の作成に取り掛かりました。

## 6. 授業レシピ

『授業レシピ』は、導入・展開・終末における発問の留意点やどんな学習活動を展開したりすれば児童生徒が道徳的価値への理解を深めたり、多角的・多面的な見方を広げることができるのかを具体的に記したものです。道徳の授業を構築する際の道標となることを目指しています。



平成28年7月に道徳教育にかかる評価等の在り方に関する専門家会議を経て、「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」そして「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」という3つのパターンの展開例が提示されました。授業レシピは、提示された中の「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習の展開例」「道徳授業づくりフレームの支度(展開例を具体化)」「本時の展開」「授業づくりのポイント(展開の5W1H)」で構成されています。



・平成28年7月道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議報告の展開例をより授業をつくる過程としてイメージしやすくするために肉付け  
 ・導入から終末までの授業の基本的な過程を表示

・主となる発問  
 ・活動内容  
 ・子どもの反応予想  
 ・補助発問

展開例	道徳授業づくりフレームの支度 (展開例を具体化)	本時の展開 「主となる発問」〇生徒の活動	授業づくりのポイント (展開の5W1H)
①道徳的価値に関する 内容の提示 ②教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ③方向付ける。 登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。 【教師の主発問例】	<b>考えさせる準備</b> 1 話題を起す 「～なときってない？」主題(価値)・場面をおわせる(伝える) *すべき・大切・しないといけない・してはいけないは、ねらいによってはタブー 2 主題(価値)・場面を投影させる 「君たちならどうする？」 「なんで?」「どう思う?」	予想される生徒の反応 ……導入…… アンケートの結果の一部を知る。 アンケート「信頼できる友達とは？」 余計なことを考えずに夢中になって話し合える 悩みを聞いてくれる 嘘をつかない ダメなことはダメといってくれる 弱みを見せられる 「もし、自分にとって大切な友達が事件を起こしたとき、みんなはどうする？」 ・場面を思い浮かべ、考えを伝え合う。 秘密にしておく まず理由を聞いたりする	授業づくりのポイント(展開の5W1H) ・問いかけに対して生徒が構えてしまわず、教師が求める答えを探ることがないように発問の言葉選びに留意。アンケートの問いの文言は、生徒の実態や心情を配慮した。「友達とはどんな存在?」では、生徒によっては、答えづらい質問となるため。 ・話題提起となる発問。 ・主題と問題場面をおわせるねらいであり、また、考えを伝え合いやすい空気づくりであるから、短時間

・教材から授業を作り上げていく段階、授業を展開させていく段階において持っておいて欲しい視点  
 例えば、発問や提示するタイミング等の設定理由、留意点を具体的に提示。  
 「なぜ問うのか?」「なぜ、その文言なのか。」「なぜ、このタイミングなのか。」  
 「子どもの活動において授業者が気をつけておくべきことは?」

## 7. 授業づくり研究を通して

授業を作り上げる手順は、他の教科と同様と言えます。まず、ねらいを検討し、指導の要点を明確にすることから始まります。そして、教材の吟味を経て、児童・生徒の学び合いを具体的に想像しながら指導過程の構想に移ります。

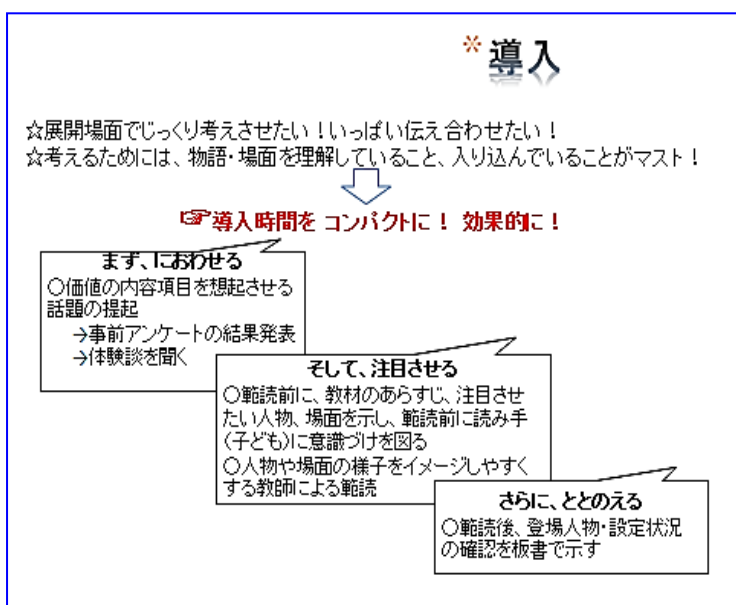
道徳の授業の学習指導過程は、一般的に「導入」「展開」「終末」の3つの過程が設定されて行われています。児童・生徒が自己の考えをもち、仲間と伝え合う時間を通して多様な考え方に触れる授業をつくる時、それぞれの過程において、明確なねらいとしかけをもった指導の工夫が必要となってきます。

## (1) 「導入」のねらいとしかけ

導入は、主題に対する興味や関心を高めること、学習に向かうための動機付けを図る段階であると言えます。具体的には、本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入、教材の内容に興味や関心をもたせる導入などが考えられます。

授業づくりにおける「導入」の時間は、コンパクトで効果的な時間にする必要があります。

読み物教材を使った授業で児童生徒にじっくりと考えさせるためには、いかに教材の内容や場面を理解し、イメージできているかにかかっています。しかしながら、「展開」の時間でじっくりと対話をさせ、多様な考えに触れたり、自己の考えを深めたりする時間も確保しなければなりません。



まず、「導入」の時間の効果を高めるために考えたのが「におわせる」しかけです。

例えば、道徳的価値の内容項目に関係する話題の提示とともに、今までの体験を子どもに聞くことから学習を始めることで、授業への関心を高める効果があると考えます。また、事前アンケートをとり、その結果について学級で確認することで、授業者が学級の児童・生徒の学習前の考え方を見取ることができるとともに、児童・生徒が、自分達の学級の考え方の有り様を知ることができます。

次に、「注目させる」しかけです。教材のねらいや特徴を理解した教師による範読は、要所で語句の解説、重要と考えられる部分の繰り返しや強調により、教材の場面理解を促す効果があります。また、教材を読む前に、あらかじめ事件のあらすじやそれに係る人物を提示してから、注目させたい場面や人物を提示することで、児童・生徒が焦点化して教材を読むことが可能になります。場面をしっかりとイメージさせ、理解を促すことで児童・生徒が具体的な考えを考えるための下準備としての効果があったと考えます。さらに、大切な設定を子ども達と確認しながら板書上に「ととのえる」ことで、場面理解の支援、捉え方のずれを整える効果がありました。

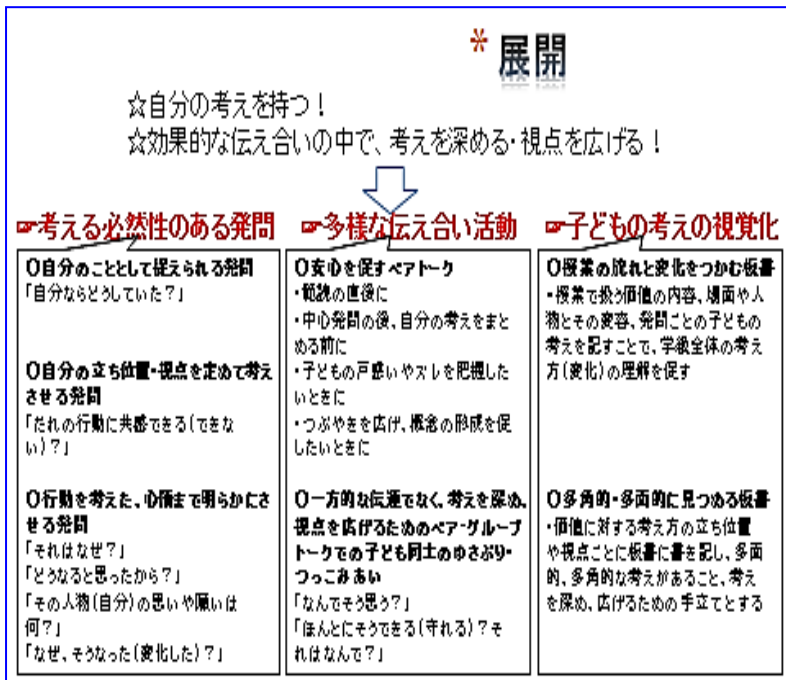


(2)「展開」のねらいとしかけ

展開は、中心的な教材によって、道徳的価値の理解を基に自己を見つめる、学習の中心段階です。子ども達の実態と教材の特質を押さえた発問等をしながら進めていきます。自分との関わりで道徳的価値を理解したり、物事を多面的・多角的に考えたり、自己を見つめる等の学習が深まるように工夫します。

「展開」の時間のしかけについては、効果的な伝え合いの中で、自分の考えを深めたり、仲間の考え方に触れ合うことで視点を広げたりする時間とすることをねらいとして研究しました。

授業を進めるとき、教材の場面や発問への理解のずれを見取り整えながら、効果的な発問と伝え合う活動によって、道徳的価値に対する考えや思いの深まりを図ります。



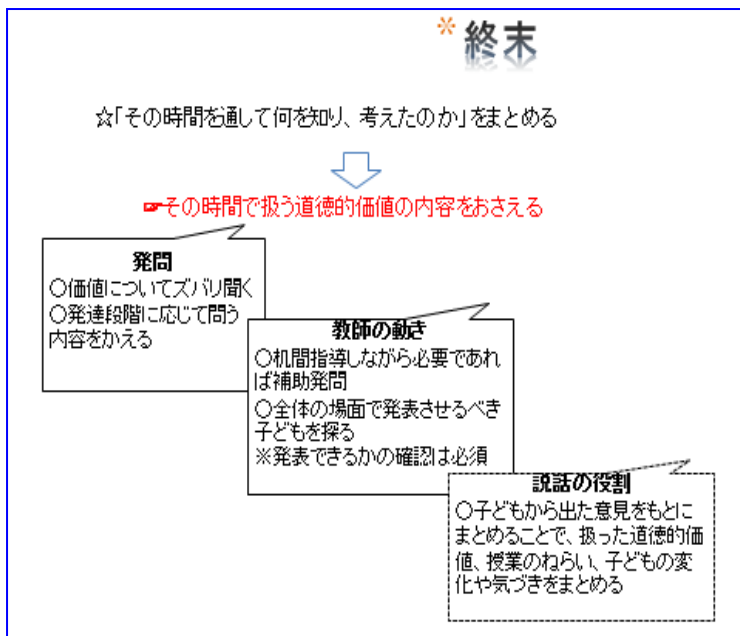
発問を考えると、道徳的価値に迫るものであり、また、子ども達にとって考える必然性の生まれる問いかけの文言であることが大切です。

人物の心情理解に対して「なぜ、この人物はこうしたのか、せざるをえなかったのか？」と深く分析させたり、できるだけ自分や自分の友達のことを教材に重ね合わせて考えなければならないようにしかける発問を考えます。さらに、こうしたいい、こうすべきだという子ども達の発言に対して、それはなぜなのかといった言葉かけをとおして、心情まで明らかにさせることも重要です。

次に、多様な伝え合い活動を設定することで、自己の考えをさらに深めたり、広げたりさせることができます。学習の中で多く設定されているペアトークや、グループトークですが、考えの一方通行的な伝達で終わってしまうことがあり、対話とはいえない活動となることがあります。効果的な時間となるしかけとして、改めて学習のねらいを確認するとともに、子どもたちが相互に「なんでそう思う？本当にできる？なんで？」と問いかけ合いをトーキングのシステムとして提示し、大切にさせることで、より価値の高い対話となると考えます。

### (3) 終末のねらいとしかけ

終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階であると言えます。この段階では、学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする学習活動などが考えられます。



「終末」は道徳の時間をとおして何を知り、考えたのかをまとめることがねらいです。学んだ道徳的価値の内容をおさえた発問をします。正解を書かなくてはならないと感じさせる文言とならないようにする必要があります。それに加え、机間指導しながら、必要に応じて、それはなぜ？と心情を引き出すための補助発問をしたり、全体で共有したい子どもの意見をチェックしたりします。授業者の「説話」は価値を押し付けるためのものではありません。子ども達の学びや発見をまとめ、考えの多様さを明確にしたりすることがねらいです。

授業をつくる時、児童・生徒が道徳的価値に迫り、主体的な学びとなるような発問を考えていきます。しかし、一つの発問で価値についての理解や考え方の深まりにつなげることは難しいものです。そこで補助発問による揺さぶりや練り上げが必要になります。そして、それを考えるためには、教師が学習のねらいを明確にし、どれだけ児童・生徒の学び合いを具体的に想像することができているにかかっています。

## 8. さいごに

「特別の教科 道徳」の完全実施が迫り、導入される教科書等に注目されている方も多いと思います。今後、道徳教育に係る情報の増加と研修のさらなる充実化もはかられていくと推測されますが、道徳教育研究グループにおいても今後の動向を注視していくとともに、道徳の授業のさらなる充実のため、研究活動を重ね、その研究の成果を発信していきたいと考えています。

急激に変化していく社会に生きる、目の前の大切な子ども達のために、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢を育むことはわたしたちの大きな使命です。しかし、45分や50分の時間の中でねらいにつなげ、子どもたちが考えたいくなる発問や多角的・多面的な物事の見方ができるようなしかけを考えることは楽しくもある一方、時間のかかる難しいことです。道徳教育研究グループの研究が、少しでもみなさんの授業実践のお役に立てるよう努めてまいります。

なお、本年度作成いたしました、「授業レシピ」につきましては、SATSUKI ネットポータルサイト（吹田市立学校教育情報通信ネットワーク）知恵の泉にて閲覧可能です。

〈参考〉 文部科学省 教育課程企画特別部会 論点整理 平成27年8月

文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成27年7月

文部科学省 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成27年7月

文部科学省 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月

文部科学省 私たちの道徳 小学校5・6年及び活用のための指導資料